

MY FAVORITE
DENTAL INSTRUMENTS

私の 道具箱

はじめに

病気の治療は、まず診断から始まるのは医学の常識。う蝕と歯周病はともに常在菌による感染症ですから、感染症診断の1丁目1番地は細菌検査です。しかし、日本の現状は、診断もそこそこ歯周治療が始まります。歯周病の発症原因はバイオフィームの高病原化です(dysbiosisと呼ばれます)。この高病原化の鍵となるのがkeystone pathogen(扇の要となる病原体という意味)と称される歯周病菌 *Porphyromonas gingivalis* (Pg菌)。患者さんのバイオフィームの病原性は十人十色です。歯周病の発症が高病原性のバイオフィームによるものなのか、それともバイオフィームは低病原性だが、大量に蓄積

歯周病診断は細菌検査から

口腔細菌検出装置 orcoa

天野敦雄

大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座予防歯科学教室
連絡先：〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8

しているせいなのか。これを見極めると効率的な歯周治療、患者指導ができます。

今回ご紹介するorcoa(オルコア)は、簡便にチェアサイドでPg菌の細菌検査ができる日本初の装置です。

orcoaの特徴

従来の細菌検査は採取したブラークを検査会社に郵送し、1週間程度で結果が送られてくる形態でした。もうそんな手間は不要です。orcoaの特徴はチェアサイドでPg菌を検出・半定量できること。使用法は至って簡単。歯間部を歯間ブラシで数回ゴシゴシ。採取したブラークを液に溶かし装置に入れるだけ。40分後、Pg菌がいれば赤、いなければ青のサインで教えてくれます。菌量は数値で示されます。こんな

便利グッズは今までありませんでした。

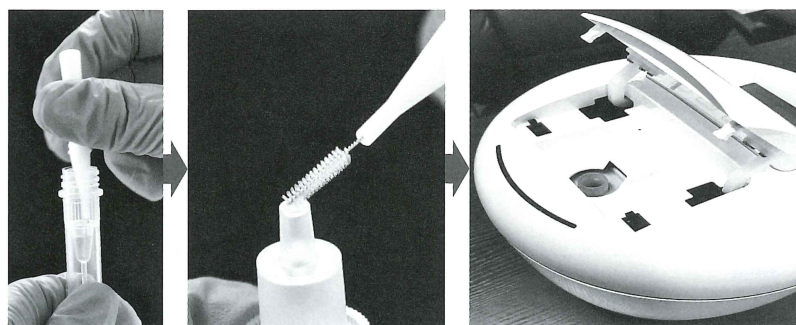
orcoaを販売するのはその名もずばりオルコア社。オルコア社と大阪大学予防歯科学教室が共同研究でorcoaを育てました。とても簡便に使用できるのが売りです。感度・精度ともに十分。そして、この装置はまだ進化します。目標は、Pg菌の遺伝子型の判別(これができて完成と言えます)と、残り2つのレッドコンプレックス菌の検出です。オルコア社によると目標達成の暁には、無料でバージョンアップだとか。細菌検査に興味がある先生がたには試してみたい装置です。蛇足ですが、この装置がどれだけ人気が出ても筆者には一銭も入ってきません。天野を儲けさせてあげようというご厚情はご無用に願います。

口腔細菌検出装置 orcoa

月額利用料：20,000円、細菌検出キット：2,000円/個
問合せ：(株)オルコア Tel. 072-993-7877



図1 orcoa本体。



ブラークを懸濁

液を容器へ塗布

装置にセット

図2 orcoaの操作手順。

欠損主体の時代から“口腔を生涯守る時代”の歯科臨床総合誌

the Quint^{ザ・クインテッセンス}essence

<https://www.quint-j.co.jp/>

特集1

歯周組織再生療法 マイクロサージエリーの真髄

特集2

咬合の動的平衡

インプラントを用いた咬合再構成の
術後経過を検証する

特集3 After the Debut

良好な顎口腔系を 早期に確立する 取り組みPART II

スマホ動画
CAD/CAM
冠接着
歯周外科

VERIFICATION

NCCL(非う蝕性歯頸部歯質欠損)Update 2019 ③

New Essence:the Debut

矯正の挺出により、歯頸ラインを揃えた全顎症例